

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 「都市支配層の社交と政治——近世ノリッジの聖ジョージ・カンパニーを中心に——」(単著)、河原温・池上俊一編『ヨーロッパ中近世の兄弟会』東京大学出版会、2014年、所収の刊行</p> <p>本書は、中世後期から近世にかけてヨーロッパ全域で族生した兄弟会(guild、fraternity、俗人による宗教的な性格の相互扶助団体)に関する共同研究の成果であり、中世・近世全体、ヨーロッパ全体を見渡した兄弟会研究は日本にも欧米にもなく、画期的な研究である。拙稿は、近世イングランドの個別事例研究としてノリッジの聖ジョージ・カンパニーを取り上げ、イギリス近世都市における都市支配層の社交について政治文化の観点から論じたものである。なお、同書には、佐々井真知氏との共著として、中近世イギリスの兄弟会を概観する節「第5章 イギリス 第1節 概観」も収められており、宗教改革が兄弟会に及ぼした影響についての記述を主として担当した。</p> <p>(2) イギリス近世都市における基盤整備に関する研究</p> <p>2000年代後半から進めてきたイギリス近世都市における基盤整備に関する研究をさらに展開させるために、17世紀に都市化が進んだロンドンで飲料水確保のために建設されたNew River関連の史資料収集をLondon Metropolitan Archivesなどで行った。</p> <p>(3) 科学研究費基盤研究(A)「近代移行期の港市と内陸後背地の関係に見る自然・世界・社会観の変容」(代表：弘末雅士、立教大学文学部)への参加</p> <p>2014年度より交付を受けている標記研究に研究分担者として参加した。担当しているテーマは、イギリス海港都市と後背地の関係であるが、今年度は研究史の整理・文献収集の作業を中心に進めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1) 経済学部長としての業務</p> <p>2014年度は経済学部長職として任期の2年目となり、昨年度と同様、教授会の運営、多数の委員会の主宰、入試関連業務、高校訪問・大学訪問・後援会と同窓会の地方支部における広報活動、公立大学協会商・経・経営部会への出席など、学部長業務に多くの時間を費やした。2014年度の大きな課題のひとつは、新カリキュラム導入の1年目にあたって生じる様々な課題への対応であったが、教職員の全面的な協力を得て、順調に実施できた。また、GPA制度の導入のあり方について検討し、2015年度からの導入を決定した。</p> <p>(2) 学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会(年8回)の企画、会誌『比較都市史研究』の編集刊行(年2回)、会計の管理などに関わった。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 研究関連では、「1. 重要事項」に記した(2)及び(3)の研究をさらに進めることが大きな課題である。</p> <p>(2) 大学行政関連では、2015年度より大学院経済・経営研究科長職に就くことになるので、大学の基本戦略との関連で大学院改革の検討を進めるとともに、認証評価に向けての準備などが大きな課題となる。</p>	